

越県合併といまの石徹白

越県合併

昭和 28 年(1953)、町村合併促進法が制定され、全国で町村合併が進みました。福井県大野郡に属していた石徹白村は、独立村を目指すものの認められず、同郡上穴馬村・下穴馬村との合併協議も不調に終わったので、岐阜県郡上郡白鳥町との越県合併が協議されました。

石徹白村内では賛成派と反対派にわかれ協議が行なわれた結果、昭和 31 年(1956)、白鳥町と石徹白村の両町村合同会議において、満場一致で両町村合併が議決されました。

しかし、この後も、賛成派と反対派の対立は続き、両県の職員や県会議員等を巻き込んでの活発な運動が展開されました。あくまで石徹白村の越県合併に反対する福井県は、合併の法定期日を過ぎても合併議決を行なわなかったため、内閣総理大臣の裁定を受けることとなりました。

昭和 33 年(1958)3月、新市町村建設中央審議会小委員会が、総理大臣あてに、石徹白の越県合併を認める答申を出します。そして9月になりようやく、石徹白村を白鳥町へ編入する処分が総理大臣によりなされます。

こうして5年の歳月を経て、石徹白村と白鳥町の越県合併は実現し、10月15日新しい白鳥町が誕生しました。

※ 合併前の石徹白村の内、上在所・西在所・中在所・下在所集落は白鳥町と合併、小谷堂・三面集落は上穴馬・下穴馬と合併しました。

いまの石徹白

「岐阜県郡上市白鳥町石徹白」、これが現在の石徹白地区の地名です。平成 16 年3月1日に、郡上郡7町村が合併し、郡上市が誕生しました。石徹白地区は、半世紀の間に2度の合併を経験していることとなります。

そんないまの石徹白地区については、溪流釣りやスキー場、スイートコーンやほうれん草、あるいは、国指定特別天然記念物・石徹白大スギ等に代表される豊かな自然のイメージを持たれる方が多いのではないのでしょうか。

しかし、石徹白地区内を縦断する県道に沿い、上在所へ入る手前に、しめ縄が飾られています。これは、しめ縄以北の上在所は、神道の地域であるという印で、明治の神仏分離令以降、飾られるようになったものです。また、地区内には、白山を開いたとされる僧・泰澄にちなむ伝承が残る場所が、たくさんあります。

石徹白地区は長い歳月を、白山信仰と共にありました。ですから、石徹白地区の歴史や生活文化、年中行事等は、白山信仰の影響を受けながら作られ、変化し、現在の形になっているものと考えられます。こうした、白山信仰との関係の中で培われた石徹白地区の歴史や文化を「白山文化遺産」と位置づけ、市では平成 17 年度に調査を実施しました。その調査結果の概要は、次のコーナーのとおりです。スキー場やスイートコーンだけではなく、別の石徹白地区の魅力が見えることと思います。
